



人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-3
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/福島・山西・武川

第51号

震災資料室

震災資料室

● 今月2月10日長田区役所前広場にて当区社会福祉協議会及びボランティアセンター主催で雪祭りが行われました。今年では5回目、協賛の岡山県東粟倉村商工会が地元の雪を運んできてくれるそうですが、今年は雪不足のため兵庫県東粟郡千種町の雪になったそうです。雪は10トンダンブ4台で運ばれました。3メートル程の雪山を作り、そりコーナーを設けましたが、祭りのコンセプトは『自由に遊んでもらう』ということだったそうです。

祭りに訪れた人数はおよそ6、7千人でそのほとんどが幼稚園、保育園児、小学校の児童で、今年も例年のようにたいへん盛況だったようです。特に午前中は大雪のちびっこが集まり、なかには、なかなか雪がある所まで到着できない子もいました。また今年は例年の出店のほかにKOB

E2001事業の一環として青空市場や3つのアトラクションも行われました。兵庫商業高等学校龍獅団の中国獅子舞、まちかどKOB夢小町の玉すだれ、駒ヶ林中学校の駒中太鼓、いづれも盛況だったようです。

この雪祭りの協賛の1つに『ながたさるびあネット』という団体があります。この団体は長田区内の福祉活動に参加している長田区及び長田区周辺にある14の企業から成っています。このながたさるびあネットの方たちがボランティアで雪だるまの宅配サービスを行ってくださいました。このイベントに來たくても來ることができない遠方の子供や小さい子供たちへのものでした。子供たちは様々な方のあたたかい協力のもとで、すてきな1日を過ごすことができたのではないのでしょうか。

震災当時の通勤路から見えるもの

昨年の秋、区役所の7階で震災資料室展を行いました。その際、区役所の職員を含めたたくさんの方々を訪れました。そのたくさんの方の中に加古川市に在住で、現在長田郵便局に勤務されている高田 知幸さんがいました。



高田さんは、震災時も長田郵便局に勤務されていまして、JR鷹取駅から長田郵便局までの通勤途中や長田や他の街を歩かれたときに、カメラにその様子をおさめていらしたようです。そして、この度、資料室展での「震災資料の提供を」という呼びかけに応えてくださり、その当時の写真を震災資料室の方へ提供してくださいました。写真は、全部でアルバム4冊分(計182枚)もありました。



提供していただいた写真の中には、駅から職場や学校へ向かって歩く人々の姿ややはり郵便局に勤務されている方々の姿と撮られている写真がいくつかありました。また、地震で大きな被害を受けた長田郵便局やその中で臨時の仕分け棚を設置して、全国各地から送られてくる郵便物の仕分けに追われている郵便局員の姿をおさめたものもありました。これは、ほとんど私たちも目にするのが無かったので貴重な写真の1枚だと思いました。

※震災・まちのアーカイブより

「瓦版 なまず(2001・9号)」

資料を提供いただき、

ありがとうございました





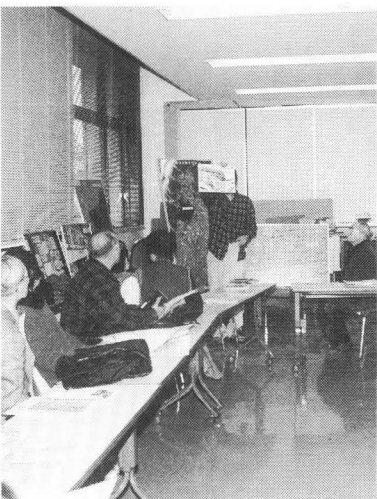
2月10日(土)、広島県世羅郡より「復興の状況視察」として26名で震災資料室を見学に来られました。

この団体は、『小世良地区コミュニティ推進協議会』として震災後の2月12日に県立文化体育館、五位の池小学校に炊き出しに来られており、今後の地域の防災活動に役立てたいと今回の視察に来られることになりました。

広島県から 中型バスで視察

午後1時の来所予定だったのですが、連休の初日ということもあり交通事情も悪かったのか、約1時間半遅れで来られたためあまりゆつくりとはして頂けなかったのですが、資料室設立の経緯、震災時の火災・避難の状況、復興の状況とその問題・課題点等を約45分程度で説明したところ、皆さん熱心に聞いていただけました。

その後いくらかの質疑応答を受け、午後4時ごろより県立文化体育館のほうへ皆さんだけで行かれ、文化体育館のほうでも約1時間の説明を受けられたようで、思いがけなかったことにまた喜んでおられました。最後に事務局の末守氏より、「これからいろいろな形でお付き合いをお願いしたい。」との言葉を頂きました。



分科会

- ① 医療・介護と防災対策
- ② 被災地の都市計画・都市基盤整備・まちづくり
- ③ 避難生活の課題とあり方
- ④ 被災者生活再建の課題と方策
- ⑤ 自治体の地域防災とコミュニティづくり
- ⑥ 障害者と震災
- ⑦ 仕事と基盤整備

『しあわせはこべるように』
『ビックバース』

蓮池小学校生徒の合唱

基調講演 (辛淑玉さん)

内容

場所 兵庫県立文化体育館他

日時 二〇〇一年四月五日～四月六日

兵庫・神戸からありがとう
自治労・阪神淡路大震災復興祈念集会
—安全・安心のまちづくりの
防災自治研集会

主催/自治労
協力/人・街・ながた震災資料室

まちづくりのコミュニティは「震災」
にも強かった—真野の村瀬さんに聞く

先の大震災で地域の殆どの住民は地元为学校へ避難をし自治活動を行った。長田区の南東にある真野地区は公害反対運動をはじめ住民自治の歴史ある街だ。

リーダーの一人である村瀬敏明さんに震災時の地域の対応と今日の取組を伺った。
「真野は住民が安全・安心に住める街と

コリアンと日本人の共生の場

「故郷の家」がオープン

二月一日、東尻池七丁目の三ツ星ベルト健保組合の跡地に鉄筋コンクリート三階建・地下一階(延床千坪)の「故郷の家」がオープンした。

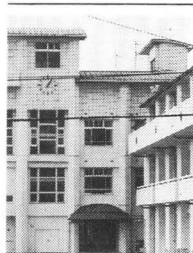
役員の池山保彦さんは「阪神大震



災の起こった夏、長

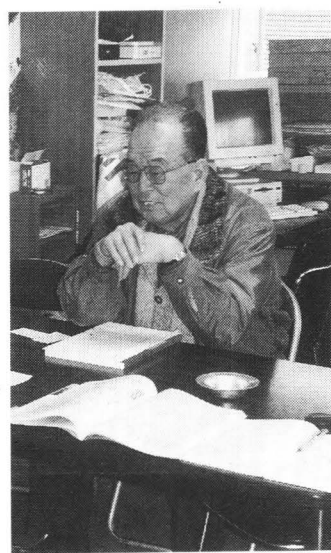
田から夜間の識字学級で日本語を学ぶオモ二たち五十人あまりが大阪の故郷の家を訪れた」そして「神戸にも故郷の家をつくってくださーいよ」と要請されたのがきっかけと語ってくれた。

韓国式オンドル部屋と畳部屋があり故郷の調度品も置かれている。礼拝場・ふれあい喫茶にも使える吹き抜けのホールもある(電話〇七八一六五一―一五五五)



してソフト面から活動をして次にハード面を採り入れていた」ところが「震災で地区で全・半壊の家屋が五八%、死者十九名がでた」

真野地区のその後の方向を決めた大きな出来事が三つあった。「東尻池七丁目の火事と初期消火



真野ビルの倒壊と六日間の救出活動そして真野小学校に対策本部を設置したこと」があげられる。また特徴的な行動として「建物安全調査」「建物レスキュー隊」がある。

震災直後の活動は、自治会や災害対策本部が中心となった。町丁ごとの自治会は最も身近な組織として炊き出しや夜警を行い、各自治会はその力量を試される結果となった。

現在、まちづくり推進会・ふれあいのまちづくり協議会・自治会等がうまく調整されて防災福祉コミュニティ活動が展開されている今年に入って、企業と地域が一緒になっての防災訓練や各地域から学校への避難経路の確認、また給食サービスも行っている。村瀬さんは「まちづくりは人づくり、三世代が住める街」を目指している。

(真野の活動については四月六日の防災自治研・地域防災とコミュニティで発表予定)